

RiskFinder 11 提供開始 (Android OS11 対応版)
～ 11月5日リリース ～

タオソフトウェア株式会社(東京都中央区、代表取締役：谷口 岳、以下 タオソフトウェア)は、2020年11月5日、Android アプリの脆弱性診断ウェブサービス「RiskFinder (リスクファインダー)」の新版となる「RiskFinder 11 (Android OS11 対応版)」をリリースしました。

今回リリースした「RiskFinder 11 Android OS11 対応版」は、Android の最新 OS である、Android 11 に対応したものとなります。

【「RiskFinder」について】

「RiskFinder」は、Android アプリの脆弱性(セキュリティホール)を診断する Web サービスです。ブラウザを経由してアプリケーションファイル(.apk ファイル)を「RiskFinder」サーバへアップロードするだけで、すぐに診断結果を得ることができます。「RiskFinder」は 2013 年 4 月のサービス開始以来、通信会社やアプリ開発会社、アプリ検証サービス会社、金融会社など、多方面で利用されています。

【RiskFinder 11 Android OS11 版】

Android OS 11 のセキュリティ機能の変更で注目すべき点は、ワンタイムパーミッション機能、オートパーミッションリセット機能、パッケージ公開設定機能、外部ストレージアクセス機能です。

ワンタイムパーミッション機能

重要なプライバシー情報である、位置情報、カメラ、マイクアクセスへのパーミッション取得ダイアログに「今回のみ」が追加されました。従来の「常に許可」はアプリケーション詳細設定画面からの設定になりました。

ラインタイムパーミッションを正しく実装している場合は、アプリケーションの変更は必要ありません。

オートパーミッションリセット機能

長期間(3カ月)使用しないアプリケーションのパーミッションがリセットされます。

これにより利用していないアプリケーションからプライバシー情報が取得されるのを防ぎます。

ラインタイムパーミッションを正しく実装している場合は、アプリケーションの変更は必要ありません。注意点としては、家族の安全を守る、定期的にデータをバックアップするなど、バックグラウンドでサーバーと定期的に通信する等のアプリケーションは、システム設定でユーザーに、本機能をオフにしてもらう必要があります。

パッケージの公開設定機能

端末にインストールされているアプリケーションを取得する方法が変更されました。

他のアプリケーション情報を取得するには、AndroidManifest に<queries>属性を用いて、パッケ

ージ名やマッチさせるインテントフィルターを記載する必要があります。
アプリケーションがどのようなデータを取得するのか Google Play 等で簡単に判断することを可能にし、ユーザーのプライバシーを守る事が目的です。

他のアプリケーションと連携をしているアプリケーションは AndroidManifest を変更する必要があります。第三者モジュール、特に広告系のモジュールでは、アプリケーション一覧を取得する物が多くあるので利用している場合は対応が必要になります。

端末にインストールされているアプリケーション一覧は取得できなくなりましたが、ファイルマネージャーアプリケーションや、ファイルバックアップアプリケーション等は、総てのファイル一覧を取得する必要があります。このため、Android 11 では QUERY_ALL_PACKAGES (protection level normal) パーミッションが追加されました。しかし Google Play のポリシー変更でこのパーミッションの宣言をしているアプリケーションの取り扱いについて変更がある事が宣言されており、アプリケーションの主目的以外の利用は制限される事が予想されるため注意が必要です。

外部ストレージアクセス機能

Android10 で大きな変更を加えた外部ストレージアクセス機能は、Android11 では細かな調整がされました。

互換のために用意された、requestLegacyExternalStorage は、Android11 で利用できなくなりました。

サードパーティのメディア ライブラリでアプリケーションをよりスムーズに動作させるため、MediaStore API 以外の API 経由で、直接ファイルパスを使用して共有ストレージのメディア ファイルにアクセスできるようになりました。

紆余曲折を続けてきた外部ストレージアクセスですが、ほぼ問題は解決され、問題とされていた WRITE_EXTERNAL_STORAGE パーミッションは無効になることになりました。

廃止に伴い、ウイルスチェックアプリケーション、バックアップアプリケーション、ファイルマネージャーアプリケーション、ドキュメントマネージャーアプリケーション等のアプリケーションのみ利用可能な MANAGE_EXTERNAL_STORAGE パーミッションが追加になりました。

このパーミッションは、ProtectionLevel が signature かつ利用可能かは Google Play へのアップロード時に審査して決められるため、アプリケーションを作成しても拒否される可能性があります。

「RiskFinder 11」は、上記の変更や指針に関する事項をチェックし、問題箇所を指摘し、改善案を提供致します。

【リスクファインダーについて】

社名 : タオソフトウェア株式会社

代表 : 代表取締役 谷口 岳

所在地 : 東京都中央区新川 2-3-1 セントラルスクエア 8F

URL : <http://www.taosoftware.co.jp/services/riskfinder>